



**2010年 高等学校韓国語中国語教師研修
2010年 外国語担当教員セミナー**

於：桜美林大学 町田キャンパス

—報告書—

2010年8月31日

主催：財団法人国際文化フォーラム (TjF)

共催：桜美林大学

1. 事業名称

「2010 年高等学校韓国語中国語教師研修」

※8月5日と6日の講義は、韓国語、中国語以外の外国語を担当する教師も参加対象とした「2010年外国語担当教員セミナー」として実施しました。

2. 事業実施にいたる背景

財団法人国際文化フォーラム（TJF）は、世界の若い世代間のつながりの実現をめざして、国内外の小中高校生への外国語教育及び多様な文化の理解を促進する事業に取り組んでまいりました。その中で日本の若い世代が21世紀を生きていく上で、日本語及び外国語によるコミュニケーション能力と多文化的資質を身につけることが不可欠であると考えてきました。しかし、日本の外国語教育の現状をみると、その在り方に危機感を感じ、その改善をめざして全国の外国語教員の皆様とともに活動をしてまいりました。

TJFは、高等学校で外国語教育に携わる教員の皆様が、言語の垣根を超えて外国語教育の目標・内容・方法について共に考え、スキルを磨く場を設けることを長年願ってきました。昨年、初めて実施した研修では、コミュニケーションアプローチを中心とする外国語教育法について学ぶとともに、外国語教育を担当する教師が、人としての成長を促す外国語教育の在り方について共に考えました。外国語教師のネットワークを形成することもでき、参加者のみなさまからもご好評をいただきました。

今年は、TJFが中心となって進めている高校の韓国語、中国語のための「学習のめやす」プロジェクトの研究成果を報告、共有し、「学習のめやす」の考え方、教育目標、内容、方法を前提とした実際の授業づくりに取り組む研修を企画しました。

3. 事業目的

- (1) 高等学校の外国語教育（韓国語と中国語教育）の目標設定・内容・方法に関する考え方や理論に対する理解を深め、学習者がコミュニケーション能力を獲得できるようにするための授業のあり方を考える。
- (2) 高等学校の韓国語や中国語の実際の授業づくりに参加者間で取り組む。
- (3) 高等学校において韓国語や中国語を担当している教員のネットワークを強化する。

4. 事業概要

○実施期間

期 間 : 2010年8月5日（木）～8月9日（月）

○会場

会 場 : 桜美林大学 町田キャンパス 明々館

○実施機関

- 主 催 : 財団法人国際文化フォーラム
共 催 : 桜美林大学
特別共催 : 駐日韓国大使館 韓国文化院、駐日韓国文化院 世宗学堂
駐日中国大使館教育処
後 援 : 文部科学省
助 成 : 財団法人かめのり財団

○講師・コーディネーター

前半2日間の講師には、昨年に引き続き、外国語教育の先進地域である米国のナショナルスタンダードズの日本語作成委員を務め、現在、全米日本語教師会の会長である、カリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦教授をお招きしました。

後半3日間は、主任講師を當作教授にお願いし、全体を統括していただくとともに、中国語及び韓国語別に講師・コーディネーターを配置しました。講師は、「学習のめやす」のプロジェクト協力者に依頼し、コーディネーターは、昨年実施した本研修に全日程参加し、本年5月15日(土)に実施した事前のワークショップに出席して下さった現役の高校教師の先生方をお願いしました。

[主任講師]	當作靖彦	米国 カリフォルニア大学サンディエゴ校教授
[韓国語担当講師]	金孝卿*	国際交流基金日本語国際センター専任講師
	中川正臣	韓国 弘益大学教養科専任講師
	阪堂千津子	東京外国語大学等非常勤講師
[中国語担当講師]	植村麻紀子	神田外語大学専任講師
	胡玉華	関西学院大学常勤講師
	山崎直樹*	関西大学教授

[韓国語担当コーディネーター]

李貞榮	大阪府立佐野工科高等学校
任喜久子	大阪府立阪南高等学校
川上知美	大阪府立桃谷高等学校
中野徹生	富山県立伏木高等学校
増島香代	神奈川県立横浜清陵総合高等学校
山下誠	神奈川県立鶴見総合高等学校

[中国語担当コーディネーター]

岸昌代	大阪府立桃谷高等学校
須田美知子	東大阪市立日新高等学校
鷹野由紀子	関西学院千里国際中等部・高等部
藤井達也	埼玉県立伊奈学園総合高等学校
山崎順平	宮城県貞山高等学校
若森幸子	埼玉県立戸田翔陽高等学校

(敬称略, 五十音順) *各言語のリーダー)

○参加者（講師・コーディネーターを除く数）

・韓国語、中国語、日本語、英語、ドイツ語教育関係者 延べ人数 87名

5. 研修の内容

本研修は、韓国語と中国語に限らずひろく外国語教育に携わる教師を対象とするプログラムを前半に設定し、外国語教育のあり方について共に考える機会としました。プログラム後半は、韓国語教師と中国語教師を対象を限定し、中韓合同で研修を行いました。

前半 2 日間の研修では、高校の韓国語、中国語の教師のほかに、英語、ドイツ語、日本語を担当する教師約 90 名が参加しました。今年は、高校教師のほかに、高校との連携を考える大学の先生や、高校の外国語教育に関心のある大学院生、海外の中等教育における日本語教育関係者等の参加もあり、言語や所属機関を超えた研修となりました。主任講師には、昨年引き続き、當作靖彦氏（米国カリフォルニア大学サンディエゴ校教授）をお迎えし、コミュニケーション能力が身につく学習のプロセスと評価をテーマにお話しいただきました。

コミュニケーション能力を身につけるための外国語教育を行うためには、教師が学習者にどのようなコミュニケーション能力を身につけさせたいかゴールを最初に設定し、そこから遡ってカリキュラムをデザインする方法（バックワードデザイン）が有効であることが提示されました。また、ゴールと表裏一体の評価については、学習過程で行う形成的評価と、学習後に行う総括的評価をどのように行い、どのように学習者にフィードバックするか具体的に解説されました。

後半 3 日間は、主に高校で、韓国語または中国語を担当する教師、各言語約 20 名を対象に言語別にグループに別れ、副主任講師 1 名、講師 2 名、グループコーディネーター 6 名を配置して実施しました。前半 2 日が広く外国語教育における理論や方法を考える内容としたのに対し、後半 3 日は、前半 2 日間の講義を踏まえ、グループで具体的な授業案づくりに取り組むという実践的な内容としました。具体的には、TJF が中心となって作成している高校の韓国語、中国語のための「学習のめやす」の考え方、教育目標、内容、方法を前提に高校生に身につけてほしいと考える能力を指標として設定し、指標達成のための学習活動の流れ（授業や単元）を考えてもらいました。その際、学習活動の中に組み込むべき学習要素として、言語（表現、語彙）のみならず、文化（文化理解の視点、文化事象）、21 世紀に必要なスキル（高度な思考力（認知、内省、分析など）、テクノロジー（IT 操作）力など）の三つの領域を設定し、それらを包含した一連の学習活動として「学習シナリオ」の作成に取り組みました。

6. 事業の成果

5 日間の研修を通して、高等学校の外国語教育の目標設定・内容・方法に関する考え方や理論に対する理解を深めることができ、学習者がコミュニケーション能力を獲得できるようにするための授業のあり方を共有することができました。また、TJF が中心となって進めている高校の韓国語、中国語のための「学習のめやす」プロジェクトの研究成果を共有し、「学習のめやす」の考え方、教育目標、内容、方法を前提とした実際の授業づくりをグループで取り組むことで、高等学校等における韓国語や中国語を担当している教師のネットワークを強化することもできました。

7. 今後の課題

昨年の研修後に受講生から挙げられた、「講義内容が多すぎて消化しきれなかった」、「使われた用語が難しく結果的に講義の内容を十分に理解できなかった」という課題については、講師の配慮に加え、用語集を配布資料につけることでほぼ解消されました。

しかし、「具体例を提示しながらゆっくり話を聞かせてほしかった」という要望には十分応えられず、今年も「模擬授業を取り入れるなど講義内容を更に詳しく、具体的にしてほしい」という声が複数届けられました。また、「グループ活動の時間を長めに設定してほしい」「ポスター発表に説明者をつけてほしい」など、後半のグループワークのプログラムは時間をかけてより丁寧に取り組みたいという要望がありました。

講師からは、後半のグループワーク作業の中で、受講生と評価についての意見交換がたびたびあったことが報告されました。評価について特化したワークショップを設定したり、評価の方法やマニュアルを提示したりする必要があるのではないかという意見が、韓国語、中国語双方に挙げられました。

以上の課題を踏まえ、来年度の研修をプログラムする際には、テーマを絞り、後半のグループワークにより多くの時間を確保することで、より具体的で実践的な内容としたいと思います。

8. アンケート結果

○今回の研修で得たものはあったか

あった	64
なかった	0

- ▶ 「言語教育の新しい捉え方」、「評価の考え方と方法」、「外国語教育における目標設定の重要性」、「バックワードデザインの考え方」、「教師自身の多様性に対する気づき」などが今回の研修で得たものとして挙げられました。

○また参加したいと思うか

思う	56
条件次第	5
思わない	1
無記入	2

- ▶ 条件次第と応えた方からは、「テーマを変えて実施されれば参加する」、「日数がもう少し短くなれば参加する」、「アクセスのよいところで開催されれば参加する」というコメントをいただきました。一方参加しないと答えた方からは、「2年続けて参加し、昨年の内容と重なるところが多かったから」というコメントをいただきました。

○改善してほしいこと

ある	26
特にない	38

- ▶ 「日程・時間割について」、「事前情報・事前課題について」、「会場・宿泊施設について」の要望がありましたが、研修内容に関して、アンケートで複数(3名以上)から寄せられた改善要望は、「模擬授業を取り入れるなど講義内容を更に詳しく、具体的にしてほしい」、「グループ活動の時間を長めに設定してほしい」、「ポスター発表に説明者をつけてほしい」でした。

研修のひとこま

教育者として、外国語教育に真剣に向き合っている全国の先生方にお集まりいただきました。これからの外国語教育の在り方について、言語の枠を超えて検討する様子に、日本の外国語教育の未来がここから始まる思いがしました。

8月5日～6日 講義



参加者に語りかけるように講義する當作先生



ペアワークを交えた講義に主体的に取り組む受講生

8月7日～9日 グループワーク



韓国語のグループ作業風景



中国語のグループ作業風景



韓国語のポスター見学風景



中国語のポスター見学風景

韓国語と中国語を担当される先生を中心に、外国語教育を担当される先生方が一堂に会し、共に外国語教育の未来について考えた会合となりました。受講生のネットワークは年々広がり、大きな力となりつつあります。

8月5日 交流会



桜美林大学アドミッションセンター長
堀潔教授からメッセージをいただきました。



担当する言語、所属機関の枠を超えて、先生がた
が一同に会した交流の場となりました。



駐日本国大韓民国大使館韓国文化院世宗学堂
呉英元 理事よりご挨拶いただきました。



財団法人かめのり財団 西田事務局長より
ご挨拶いただきました

2010年 高等学校韓国語・中国語教師研修 日程表
2010年 外国語担当教員セミナー

於：桜美林大学 町田キャンパス 明々館

【対象】 韓国語・中国語教師 + その他の外国語教師	8月5日(木)	1 コミュニケーションとは何か	2 新しい能力を身につけるとは何か	キャンパスツアー + 昼食	3 目標設定から活動まで ①	4 学習者中心のクラス活動	Q&A	講師・参加者交流会
		A 510 9:00-10:30 講義	A 510 10:45-12:15 講義		A 510 13:30-15:00 講義	A 510 15:15-16:45 講義	A 510 16:45-17:15	ファカルティラウンジ 17:20-18:30 ビュッフェ軽食
	8月6日(金)	5 目標設定から活動まで ②	6 カリキュラムのバックワードデザイン	昼食	7 形成的評価と総合的評価	8 学習シナリオ	Q&A	
		A 510 9:00-10:30 講義	A 510 10:45-12:15 講義		A 510 13:15-14:45 講義	A 510 15:00-16:30 講義	A 510 16:30-17:00	
【対象】 韓国語・中国語教師	8月7日(土)	9 「学習のめやす」がめざすもの	10 学習シナリオの説明	講師・コーディネーター 合同昼食会	11 シナリオの構成要素を考える		12 まとめ	
		A 604 9:00-10:30 オリエンテーション	A 604 10:45-12:15 オリエンテーション		韓:A 508 中:A 505 13:15-14:45 モデルシナリオの提示と作業説明 学習要素の抽出作業	15:00-16:00 ディスカッション	A 604 16:00-16:30 まとめの ディスカッション	
	8月8日(日)	13 シナリオにいたるまでのプレ活動を考える			14 シナリオ作り ①			
		A 604 (PC教室) 9:00-10:00 導人	韓:A 508/A509 中:A 505/A507 10:15-12:15 5×5作業説明 5×5作成	昼食	韓:A 508 中:A 505 13:15-14:45 5×5ポスター見学 5×5を2グループでコメントし合う 講師からのコメント	韓:A 508 中:A 505 15:00-15:30 シナリオ作り 導入・説明	韓:A 508/A509 中:A 505/A507 15:30-16:30 話題分野・指標 を選ぶ	
8月9日(月)	15 シナリオ作り ②		16 ポスター掲示		17 ふりかえり			
	韓:A 508/A509 中:A 505/A507 9:00-12:00 シナリオ作成 *各班で適宜15分の休憩を挟むこと	韓:A 508 中:A 505 12:00-12:15 ポスター掲示	昼食	韓:A 508 中:A 505 13:15-14:00 ポスター見学 (自言語見学・コメント)	韓:A505 中:A508 14:00-14:45 ポスター見学 (他言語見学・コメント)	韓:A 508 中:A 505 15:00-15:30 自分達の シナリオを振り返る	A 510 15:30-16:30 まとめ	